

第1回 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会 議事要旨

開催日時	2020年7月28日(火) 18:30~20:30	
開催場所	町田市役所市庁舎3階 3-2~3会議室	
部会員 (出席者)	委員	山口勝己、末吉泰子、鴨河貴史、相澤真理、関根美咲、岩切洋一、高橋博幸
	職員	(学校教育部) 北澤学校教育部長、小池指導室長、田中教育総務課長、浅沼施設課長、田村学務課長、有田保健給食課長、林教育センター所長、鈴木教育総務課総務係担当係長 (財務部) 武井宮繕課長 (庶務：教育総務課総務係) 中野主任、小形主任、京増主任 (策定支援：株式会社豊建築事務所) 田中秀明、奥澤信之
審議内容	「(仮称) 町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方」 検討課題について	

■議事要旨(敬称略)

1. 学校教育部長あいさつ

(学校教育部長あいさつ)

2. 委員自己紹介

(山口部会長及び部会員の自己紹介)

3. 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会 運営について

教育総務課 (資料1~2説明)

4. 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会 検討事項について

教育総務課 (資料3~8説明)

山口部会長 上位の教育プランをしっかりと念頭に置いて話をしていくようにしたい。

5. これからの学校施設に期待される役割について

教育総務課 (資料9~12説明)

山口部会長 教育環境づくり、市民生活の拠点づくり、放課後活動の拠点づくりの3つに分けて議論したい。まずは教育環境づくりからご意見をいただきたい。

末吉委員 母親の立場からの意見。学校というのは、勉強だけではないと思うが、町田市の学力は資料を見たが決して高くない。平均あたりだと思うが、地域差が物すごくあると思う。文科省の発表で小学生の暴力事件、学校内の暴力事件がかなり増えているということを見た。ゆとり教育はすごく大きいのかなと思う。ゆとりが本当に大事なことなのか考えないといけないところはあるというのを教育環境という意味では感じている。何でも広くて、何でも緩やかで、穏やかで広い環境で伸びやかにという

のが必ずしもいいかという、議論する余地があると思う。

鴨河委員

小・中学校においては特に人間の個性やその他の基本的な部分が健やかに育つというのが最大の目的だと思う。最近の若い世代の人たちというのは心が豊かでないような気がする。我慢する力、辛抱する力、逆に自分から自発的に学びをするという目的に、昔で言えば努力と根性という話になるが、そういうものを持っていない子どもたちが多いような気がする。その部分を育てるためには、環境も大事だが、教師の方々の教えと地域の方々の教えが大事だと思う。

相澤委員

たまたま町田第一小学校の卒業生に会ったので、こんな学校があったらいいなってどんな学校って聞いてみたら、争いごとのない学校がいいとの答えがあった。機能として考えるとしたら、死角を作らない、人間は窮屈なところにいれば心がすさむ、精神的にも痛くなってしまうこともあると思う。教室を広くするなどの環境を整えるということも大事とは思う。

子どもたち、先生方にとって何が一番必要か。学力はもちろん、メンタルの部分でも、周りにいる大人たちがケアできるような環境づくりというのが大事だと感じた。

関根委員

今の中学生は、自分でいろいろ考えて生きる力が弱いと思う。目の前のことを一生懸命やるが、自分の将来とか、どんな大人になるかを見ることができていないと思う。

金井中学校は、そういった子どもたちのために、キャリア教育にすごく力を入れているが、子どもたちは家庭生活の中で、限られた大人の中で育っている。その中に地域の方などの素敵な大人を入れてあげることは、私の役目と思っている。こんな素敵な大人にといい先の見通しが立てられるような子どもを育てるために、学校生活の場があると思う。地域の方が入ることができるような学校生活の場を、ハード・ソフトの両面で考えていくべきではないかと思う。

岩切委員

教育環境づくりでは時代が求めるものとか、様々なものがあると思うが、そもそも学校が必要なのかという議論をしている人もいる。

新型コロナウイルス感染症が発生する前から言われてきたのが、これだけウェブを使っただけのツウエイ機能があるので、これでも学校が成り立つんじゃないかというのがある。ある学校法人が通信制の中学校を申請したところ、前例がないから却下された。前例が1個できれば、そういう学校がどんどんできてくる可能性があると思う。通信制などの場所を選ばない学校がいいという子たちが集まる学校というのはどういう学校で、そこにふさわしい教育環境というのはどういうものかと思う。

高橋委員

中学校の校長として今の世の中を考えてみた場合に、産業はITとかどんどん変わってきていて、予測不可能な未来が待っている。変化が激しくなっているの、基礎基本の授業をしっかりと教え込むところも大切だが、考える力というのが非常に大切になってくる。子どもたちも、想像して考えて生きていく力が必要と思っている。

町田市は情報の部分を進めているが、いいと思う。そういったところも教室環境に落とし込んでいきたい。

また、子どもたち同士が意見を出し合っ、自分の頭で考えて表現できる力、世界

の人たちとも話し合えるような表現する力、外国人や性の問題などの多様な考えもできるような子どもを育てていきたいと思っている。そういったところも含めながら、教育環境というものをこれから議論していったらいいと思っている。

山口部会長

一つは学習面ということで、学校で集まったの学習の必要性の意見もあったが公立の学校としての基礎的な学力の話もあった。

一つはICTの導入なども含めた学習面、人間教育、メンタル面、キャリア教育の話があった。

末吉委員

子どもが自ら学習内容を選択するという点について、教員単位でその選択の是非の判断ができる教育環境があったらいいと思う。

山口部会長

次は市民生活の拠点について意見を伺いたい。

末吉委員

コミュニティとの関わりについてだが、核家族が増えている、ひとり親家庭が増えていることから、いろんな世代と交わることが親としてもすごく重要でありがたいと思う。子どもたちが育っていく環境の中にいろんな年代の方がいてくださるというのは本当にありがたいし、親でもない、教師でもない、そういう立場でいろんな話をしてくださったりとか、そういう人が言うから聞けるということも実際にはたくさんある。

そういう関係性というのはとても重要なので、そういう場を子どもたちに与えていけるような環境づくりをしていかなければいけないと思う反面、地域に開かれた学校をつくっていくに当たって、池田小の事件のようなことを想定すると、この人が地域の人かをどのようにして判断するのは難しい問題だと思う。

鴨河委員

防犯面は、これからの課題になる点だと思う。防犯カメラも項目に入れなければいけないことかもしれない。自分が初めて来る場所だが、誰にも注意されないと思うときもある。学校は公共の施設であるけれども、セキュリティについては必要なかなと思った。

次に、防災の拠点または地域の活動の拠点など、学校は役割がたくさんある。有事の際には、地域の方々が来るが、その体制が取れるほどの広さがあるのか、環境面では、エアコン、電気、水道、ライフラインが適正に使えるか、強固で堅牢で安全であるところを重視して考えていただければいいと思う。

相澤委員

防災拠点については、最近はずごく災害も多く、防災拠点としての役割が大きくなっていると思うので、そういうことに対して、まず対応ができるかどうか。

それから、地域活動については、町田第一小学校では校庭で毎年どんど焼きがなされている。校庭で火を焚くということは認められる学校もあれば、そうでない学校もあるということをきいている。地域活動に必要な広さなどを頭に置きながら、つくっていかなくてはいけないと思う。

町田第一小学校は、総合的な学習で特にゲストティーチャーの多い学校。机上の学習はもちろん大事だが、本物を間近に見るとするのはすごく大事なこと。プロの方など様々な方にお越しいただいて学習を広げている。キャリア教育をしたときに、6年間勉強して、この授業が一番よかったと言って卒業していった子がいると聞いて、学校支援ボランティアコーディネーターとしてうれしかった。本

物を間近に見て感じ取ったたまものではないかなと思う。そういう方たちが学校に出入りして学習の幅が広げられていければと思う。

あと、学校にいらした方たちが生涯学習としての要素を高められるというところもある。受ける側、提供してくださる側も、よりお互いに高め合えるような大事な場所だと思うので、その辺を念頭に置きながらの計画が大事と思う。

関根委員

私も相澤委員と同じ。中学生も本物を見せるということは大事。いろんな取組をしながら、人生が変わった子もたくさんいる。一級建築士のお話を聞いて、その道へ行った子がいるなど学校ボランティアコーディネーターというのは大事な役割を担っていると改めて思った。

市民生活の拠点づくりに戻るが、ゲストティーチャーがいらっしゃるお部屋は何とか確保はできている。いろいろやり繰りしながらやっているが、常に地域の方をお迎えできる部屋はない。そういったところがあれば、先ほど話があった世代の関わり、そういうコミュニティをつくれる場所があれば、子どもたちも気軽に行けたり、いろんな話が聞けたりすると思う。

セキュリティについては、視察した学校の中にも、1階に事務室や受付があるところは、それなりにチェックができる。ただ、ほとんどの学校は2階に職員室があったり、階段を上がって2階に来客用の玄関があったりするので、ほとんどノーチェックで入ってこられるので、怖いなと思った。

岩切委員

学校施設は、余裕がなかった時代とは違ってきており、余裕がある、セキュリティの関係でできていないものはあるが、体育館以外の開放も今後は学校はやっていくべきではないかと思う。

北区で9年校長をしていたが、地域とのつながりが強い。学校を使って敬老会の新年会などをしていたぐらい地域の方が学校に対して愛着を持ってくれる。子どもたちの面倒もまた一緒に見てくださるというよさもあった。だから、ウィンウィンという形でいけば、学校をただ開放するというよりも、お互いに使い勝手がいいような施設にしていくというのは、今後大事だと考えている。

高橋委員

私も、南成瀬中学校の前は福生市で校長をしていた。地域がすごく助けてくれた。福生市はコミュニティスクールを2019年からスタートさせたが地域の方が小学校によく集まってくれて、いろんなことをしていただいた。読み聞かせやヤゴ採りなど、いろんな場面で助けてくれた。

今の中学校では、まだそこまでいっていないが、2021年度、コミュニティスクールになるので、地域の方の人材が豊富なので、そういった方たちに来ていただいて、教育的な資源として本校の中学生を育てていただければ非常にいいと思うし、いつでもその方たちが来られる部屋があればと思う。

また、ゲストティーチャー、外国人の方に来ていただいて、外国のお話を聞かせて、世界に目を向けさせるというようなことも総合的な学習の時間でやっている。合唱部は、老人ホームに行って合唱を聞かせたり、生徒会などは南成瀬小学校とか南第二小学校に行って地域のお祭りを手伝ったりしている。

防災の拠点ということでは、大人だけではなくて、中学生の力も活用していきたい

いと思う。

山口部会長

一つは、学校教育自体への地域の人材資源を活用・地域連携や学校施設の開放。公共施設の再編計画にもあるが、広い場所、建物を活用していくという物理的な側面。防犯のセキュリティ。防災の拠点の話があった。

関根委員

町田第5地区（金井中、鶴川中、金井小、大蔵小、藤の台小、鶴川第一小学校）のボランティアコーディネーターが集まり、自分たちの周りのお店や商店会に子どもたちの作品を散りばめて展示をしている。そこを地域の方や子どもたちがギャラリーウォークすることによって地域が活性していくというようなイベントをしている。

学校にも展示するので、いろんな方が学校にも来るが、セキュリティを無視しながら入ってこられているような状況。開かれた学校ということにはなるが、事故が起こらないかの心配はある。

山口部会長

放課後の活動の拠点づくりについて意見を伺いたい。

末吉委員

学童保育と放課後子ども教室については、どちらもひとり親家庭と共働き家庭に関したもので、非常になくはならない制度だと思う。このまま続けていただければとてもありがたい。ただ、学校とか地域の状況によると思うが、放課後子ども教室「まちとも」も、学童保育も、もう少し質が高まればいいなと感じている。

地域に開かれているからこそ、いろんな子が行ける。問題を抱えた子が行くケースが多いが、どんな子も行って、そこで子どもたちの社会教育的な役割も果たしていただいただけると、親としてありがたいと思う。

鴨河委員

今、町田第一中学校は改築工事中で部活動がほぼできない。周りの施設、広場、運動場もないので、借りてちょっとやっているのが現実。今工事中だから致し方ないが、こういった中でグラウンド、テニスコート、他の行政の施設をお借りして何とか2年目を迎えている。新しい校舎ができたときには、地域の方々、その他コミュニティ施設としても開放してもらいたいと思う。

それには、ウィンウィンのことがなければ、かなわないことだと思う。

相澤委員

学童保育と放課後子ども教室「まちとも」にも関わっている。東京都のコーディネーターの基礎研修の企画委員として4年になるが、その中で文科省の話とかも議論の中に出て、将来的に学童保育と放課後子ども教室が一体化する可能性もあるということをちらっと伺ったことがある。

学童保育も放課後子ども教室も一本化するならして、一つのまとまりとして考えて箱物を造るというのが理想だと思う。国から下りてきたものを東京都が受けて、東京都が受けたものを町田市が受けるということで、致し方ない部分だと思うが、箱物を造るのもお金がかかるので、その辺も見通しを立てた上で計画を立てていくほうが無駄がないと思う。

放課後活動については、働いているお母さんたちがすごく多いので、これからはニーズが上がっていくと思う。放課後も活動、活用ができるような学校づくりをしっかりと考えていかななくてはいけないなと現場にいて思う。

関根委員

中学校では、部活動と地域未来塾という放課後の学習補習教室というものをやっ

ている。部活動では、指導員の不足が問題となっている。先生方がお忙しくて、今まであったバスケットボール部がなくなってしまうようなこともある。

そのような場合には、ボランティアコーディネーターが外部指導員を地域からスカウトしてくる。金井中学校も幾つか部活動に外部指導員の方、地域の方が入ってくださっているが、その方が着替えや打合せや事務仕事をする場所がない状況。

地域未来塾は週に2回、金井中学校では学年の20名ずつぐらいでやっている。そこに地域の方から講師の方をお招きして、一緒に授業を進めていくという形になっているが、そこでも教室がない。子どもたちに聞かれない打合せとかあるので、現状とても困っている状態。

岩切委員

放課後活動の拠点づくりというのは、ぜひ今後の学校施設に考慮していかなくちゃいけないものだと考えている。放課後の校庭、体育館というのはあまり有効には活用されていないようにも思う。

忠生小学校の周りにきれいな公園等はあるが、公園は大体球技禁止になっているので、子どもの体力向上という面でも課題があると思う。施設の有効活用は今後考えていかなくちゃいけないというときに、単なる場所だけではなくて、時間の有効活用というのにも必要だと思う。

社会構造の中で共働きの方が今後増えはしたとしても減ることはほぼないと思う。保護者の方々にとっての安心の場所であるという視点は絶対に必要と考えている。

高橋委員

部活動は、教員の異動があるため、部が持てなくなると成り立たなくなってしまう。そのような場合は外部指導員や部活動指導員といった方たちに来ていただいているが、打合せとか着替えという場所もなかなかなく、着替えの場合は職員室の職員が使う更衣室を使っていたり、打合せは職員室に来てお話しする。なかなか込み入った話もできないので、場所が確保できないということがある。

また、部活動は子どもたちにとっても非常にいい教育の反面、教員にとってはすごく負担になっている。夕方の4時から6時までやると、子どもたちを帰して6時半から教材研究とか、あるいはそこからまたいろんな対応等があり、真面目な教員ほど残業時間が延びてしまって、ライフワークバランスがなかなかできない。しかも土日にも大会があるといった問題も含めて考えていかなくてはいけないと思っている。

放課後の学習教室も南成瀬中学校でも取り組んでおり、地域の方にボランティアで来ていただいて数学と英語を主に教えてもらっている。地域と連携しながら進めているところなので、場所の確保ができれば大変助かると思っている。

山口部会長

現状の学童保育とか放課後子ども教室等も施設的なフォローが必要だということだと思う。今までこの辺の部分というのは、学校の施設ではあまり重要視されてこなかった部分だと思うので、こちらの方針の中に入れ込んでいければと思う。

6. 「(仮称) 町田市立学校の新たな学校づくりの基本的な考え方」 検討課題について

教育総務課

(資料13説明)

山口部会長

最初に基本理念・基本方針をしっかりと定めてから、具体的な事柄の検討に進むのが本来かと思うが、短時間ではなかなかそういうわけにもいかないと思うので、並行的にいく可能性はあると思う。

いろいろな施設機能を検討する上で、どれを重視するかというのは常に考えながらまとめていきたい。

2番の教員アンケート調査とあるが、先生方の意見以外にも重要だが、学校の中の問題点を一番把握されているのは先生方だと思うので、そちらのご意見を伺って現状の問題点と将来の学校に要望することをまとめていきたい。あと、2000年以降に改築・新築された学校に関して、現地調査、それから先生方へのアンケート調査などを私どもの研究室で行って、その成果を基に、その後の議論を深めていければと思う。

個別の学校施設機能に関しても、特に学校の中心となる普通教室周りを中心に3点書いているが、それ以外にもいろんな部屋がある。普通教室以外にまとめて掲げているが、内容別に分けて、それぞれ検討していくということになると思う。

末吉委員

収納スペースがどこも今の状況だとかなり少ないと思う。子どもの成長過程の中で筋トレみたいな荷物を持っていくことがいいのかというのは私はかなり疑問であるため、置き勉できるような環境を整えていただくというのは一つ議論していかないといけないことと思う。

部屋数も、恐らくどこも足りないとおっしゃっているので、特に人数がどんどん増えていっているようなところは検討してあげないといけないのかなと思う。

あと、廊下との間仕切りがないことは、社会福祉士という立場ではちょっと厳しいかなと。視察時に、この状況を聴覚が過敏な子たちはどうやってコントロールしていくんだろうと疑問に思った。

運動場のスペースは、町田第三小学校は限界が来ている。こういう学校が今後できていくととても悲しい。運動会では子ども1人に対して何人身内が来るんだとなると、町田第三小学校はもう今以上には増やせない状況。単純な運動スペースという意味ではもちろん足りていないし、そういうイベント事をするには狭い。基準がどこの学校も必要かなと思う。

プールは、2019年度に夏の開放プールは物すごく膨大な準備の中で5日間設定して、それまでにいろんな方をお願いして、いろんな準備をしたが、結局できたのは1.5日だった。この暑さで外でプールはどれだけ水を循環させても、もうお風呂みたいな。屋外のプールは無理かなと私は個人的には思っている。

鴨河委員

町田第一中学校に関しては室内プールがあり、プールに関しては十分だと思う。

町田第一中学校においては大規模校の類になる。生徒数が700名を超える大きい中学校だが、雨漏りやトイレの環境が非常に悪い。まず清潔に保てる学校であり、衛生上安心できる学校にしていきたい。

広さについては限りがあるので、造りの部分と設計の部分を未来の形にしていただけならばとは思っているが、今後20年間を見据えた上で基本理念に従って学校をつくるとなると、まず一つは効率のよい建物で、清潔であり、安全でありということ

ろに特化した建物でないといけない。

一つ言うようであれば、先ほど末吉委員も言われいたが、廊下と教室の間仕切りがないオープンスペースもメリット、デメリットがあるので、階によってはオープンするとか、またはパーティションができるような融通の利く建物にするということもあると思う。先ほどボランティアコーディネーターの方が手配される外部指導員の方とかのスペースを一時的確保できると思う。融通の利く建物にすることが基本的な理念の部分にも沿ったものになるのかなと思う。

相澤委員

教員アンケートの調査の実施はすごくいいなと思った。町田第一小学校の視察のときにご覧いただいたように、少人数の算数教室が元は倉庫だった。それを今回、3階に移動するに当たり、校内でかなり検討した。その結果、今のところ大きな不自由はなく、混乱もない。自宅にいる時間よりも学校にいる時間が長いぐらいの先生方、ハードな時間を過ごしていらっしゃるので、そういった意味では、少しでも動きやすい、教育しやすい現場づくりが大切ではないかなと思う。

何人かの先生方に、どんな感じにするのが理想かお話を伺いました。それぞれお考えがあるので、全員が理想的だというのはつくることは難しいと思う。少しでも多くの先生方が働きやすい教育現場となれるような学校づくりが大事と思っている。

関根委員

普通教室に関しては、中学生はもうぎっちぎちで、荷物を横にもかけ、ロッカーも満杯で、部活動の荷物も横に置き、通路が通れない。それにつまずいてけがをする子もいる。スペースもそうだが、ロッカーをどうにかすれば何とかなるんじゃないかなと思う。

先日、私も見学をしたが、オープンスペースはちょっと厳しいと思った。後ろの教室の一番端っこのところの席に座ってみたら、前の教室でやっていることが丸見えで、3年生の子は前の教室を見ていた。1年生は、そういうこともあるということで間仕切りをされたとお聞きした。

私も小学校の校長先生と中学校の校長先生にちらっとご意見を聞いてきたが、これから体育館を建てるならば、やっぱり重層式、2階建て以上にしていきたいとのことだった。子どもたちが運動する場と、1階は例えば駐車場、そして地域の方々が集まるコミュニティスペース、防災倉庫など。避難場所が体育館になるので、防災倉庫は近いところがいいだろうということだった。

それから、教員の方々のアンケートは、とてもありがたいと思う。ぜひ聞いていただきたいのが職員室のこと。金井中学校もそうだが、職員室の先生の机が幾らきちんとされていて、ICT化されていてもやっぱり狭いということは先生たちに聞いている。

電話の本数も今の本数が適正なのか、パンクしてしまうこともあるので、本数に関しても検討いただきたい。

中学生になるとデリケートなことを話すような場面も多い。先生と保護者と関係者とかが話しているときに、子どもたちが鍵なんかを取りに来るなど出入りするようなスペースで、そういう話はなかなかしにくいということを聞いている。そうい

ったところはちょっと心配な部分があるので、そういう話ができるスペースがあったり、ミーティングルームなんかがあったらいいなということだった。

運動場に関しては金井中学校はとても恵まれていてありがたい。広いといろんなことに使っていただけるし、地域の方にもいろいろと使っていただいているので、今のままでとても満足している。

岩切委員

個々の案件は多分次回以降だと思うので、こちらの検討課題についてはこれで十分だと思う。ただ、例えばだが、2番の基本的な考え方が定める根拠、もしかしたらこれ以上に必要なものが出てくる可能性もあると思うので、どういうものがあるかというのも事前にある程度検討したほうがいいのかなと思う。

教員アンケートだが、9月29日までにまとめていただくとすると、学校現場は、コロナの関係でかなり多忙を極めている。できるだけシンプルなアンケート項目にして、大枠がぱっと分かるようなものをお願いしたい。

あと、1番と3番は時間をかければ一定程度煮詰まると思うが、難しいのは特に2番の(2)かな。どの程度まで記載していくのか、どの程度まで求めていくのか、ここに関しては検討前から、ある程度私たちは頭に入れた上で検討に入ったほうがいいのかなと思った。

高橋委員

この検討課題についてはこれでいいと思っております。教員アンケートも大変有益かなと思う。

各教室が今は狭い。中学生の場合、ロッカーもあまりない。鞆を横に置いているので、すり抜けていくような形になる。また、グループでの話し合いもなかなか厳しいということで、もう少し広いほうがいい。それから、ロッカーを充実させたほうがいい。

あわせて、職員室も収納場所が非常に少なく、教員によっては机の下に荷物を収納しているといった状態もあるので、職員室もロッカーが充実したらいいと思う。

山口部会長

個別の話はまた次回以降時間をかけて検討していきたい。特に調査に関しては、できるだけコンパクトを心がけたい。できるだけ回答しやすい調査を作っておりたいと思っている。

本日いただいたご意見などを盛り込んで、第2回以降の検討内容を考えていきたい。次回までに少し時間があるので、私どもと事務局で大体全体像が見えるような形、それからスケジュールに関しても資料等を作っていきたい。

7. 第2回検討部会 開催概要について

教育総務課

(第2回開催概要説明)